

QuickKnowledge
ESG研究所

QUICK
サステナビリティ
意識調査

2021

Quick

エグゼクティブサマリー

■ 20代のSDGsや地球温暖化への関心は相対的に低い。SDGsを「知らない」が世代別で最高

- 「SDGsを初めて聞いた・知らない」と回答した人の割合は全体で18.6%。世代別では20代が23.1%と最も割合が高い。
- 地球温暖化の影響がすでに起きていると回答した人は全体の52.9%で、世代が上がるほど回答した人の割合が高くなった。一方、20代の37.5%は地球温暖化の影響はまだ起きてないと認識し、今すでに起きているとの回答（35.6%）を上回った。

■ 収益（リターン）よりESGを優先する人々は、人権など社会課題に関心

- 収益（リターン）よりもESGを優先する「ESG投資選好群」では、優先するサステナビリティ課題は人権が1位。男女別・世代別では、男女ともに、20代では生物多様性、30代～50代では人権が1位となった。
- リターン次第でESG要素に配慮する「ESG投資検討群」では、水が1位、次いで森林、生物多様性と主に環境関連課題が上位となった。男女別、世代別では、30代以上の男性の上位1～3位、20代～60代女性の1位は全て環境課題となった。

■ ESG投資の認知度は2割未満と低い。リターンとの関連性など情報が不十分

- ESG投資をすでにしている人は3.1%。聞いたことがある、と答えた人（14.6%）も含めても、ESG投資の認知度は17.7%。今後ESG投資をしてみたいと答えた人は全体の39.1%だった。
- ESG投資に関心のある人の理由は、「環境や社会にとって良いことをしたいから」と「自分のお金が悪いことに使われたくないから」の合計が56.2%で、リターンにつながることを理由に挙げたのは15.6%にとどまった。
- ESG投資に関心がない人の理由は、「リターンとの関連性が分からない」が37.6%、「金融商品のESG情報が少なくて判断できないから」が25.2%と、投資を判断する情報が十分でないことが挙げられた。

調査方法概要

調査の目的

- 日本国内において、金融機関と企業の顧客が、それぞれ投資行動、購買行動にどの程度サステナビリティを考慮しているか明らかにする。
- 男女別、世代別にサステナビリティ意識の違いを調査し、金融商品やサービス開発の参考となる情報を提供する。

調査の背景

- QUICKリサーチ本部 ESG研究所は、持続可能な金融・資本市場の発展に寄与することをミッションに、ESGに関する調査、研究を行っている。
- 近年、企業のサステナビリティへの取り組みは加速し、金融市場では、企業の財務情報だけでなく、環境、社会、企業統治に関する非財務情報から事業の持続性や将来の収益性を判断するESG投資が拡大傾向にある。
- 2021年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードでも、気候変動、人権の尊重、従業員の健康・労働環境への配慮や公正・適切な処遇、取引先との公正・適正な取引などのサステナビリティ課題の対応は、リスクの減少だけではなく収益機会にもなる重要な経営課題であると位置づけられ、取締役会は中長期的な企業価値の向上のために積極的に取り組むべきとされた。
- このような状況で、金融機関、企業の顧客が、投資判断や商品・サービス購入においてどの程度サステナビリティの情報を考慮しているかを整理する。
- 本調査が、企業と投資家のサステナビリティを考慮した商品開発や戦略作りの参考となり、投資家と企業のエンゲージメントの一助となれば幸いである。

調査期間

2021年7月16日～20日

調査方法

調査を委託した日経リサーチが、登録しているモニターのうち20代から70代まで10歳刻みで年代別に男女約250人ずつになるように募集し、ウェブサイト上の「アンケートフォーム」を通して回答を得る形式で、2021年7月16～20日に実施。3056人（うち33人は性別無回答）から回答を回収。内訳は20代517人、30代509人、40代509人、50代504人、60代503人、70代514人。

アンケートのサンプル構成

- 調査会社に登録しているモニターから20歳から79歳まで、年代別に男女約250人ずつサンプルを収集し、計3,056人から回答を回収
- 男女別でも傾向に大きな違いがみられた質問については分析結果を載せた。性別を「回答しない」としたサンプルは便宜的に分析から除外した。
- 全体の合計について日本の人口構成に合わせたウェイトバック集計は実施していない。
- 回答ごとに四捨五入して割合を計算しており、複数の回答を合計した割合は、個々の回答の合計と一致しないケースがある。

	男性	女性	回答しない	合計	構成比
20代	251人	251人	15人	517人	16.9%
30代	250人	253人	6人	509人	16.7%
40代	253人	250人	6人	509人	16.7%
50代	250人	251人	3人	504人	16.5%
60代	251人	251人	1人	503人	16.5%
70代	250人	262人	2人	514人	16.8%
合計	1505人	1518人	33人	3056人	100%
構成比	49.2%	49.7%	1.1%	100%	

目次

- エグゼクティブサマリー p.2
- 調査方法概要 p.3
- アンケートのサンプル構成 p.4

- 1. SDGs・気候変動に関する意識調査**
- SDGsの認知度 p.6
- SDGsで最も大切だと思う目標 p.7-8
- 新型コロナウイルスのSDGsの認知度への影響 p.9
- 最も大切だと思うSDGs目標を選んだ理由 p.10
- 気候変動課題に対する認識 p.11

- 2. ESG投資意識調査**
- ESG投資の認知度 p.12
- 重視するESG課題 p.13
- ESG投資に対する関心 p.14-16
- リターンとサステナビリティ選好 p.17-20

- 3. サステナビリティ購買意識調査**
- 価格とサステナビリティ選好 p.21-24
- 調査結果考察 p.25-27
- 関連調査概要 p.28

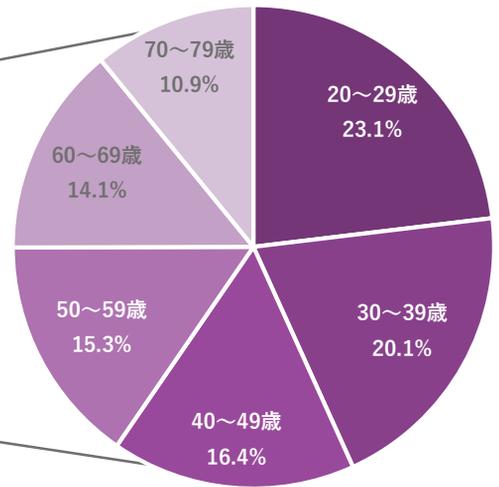
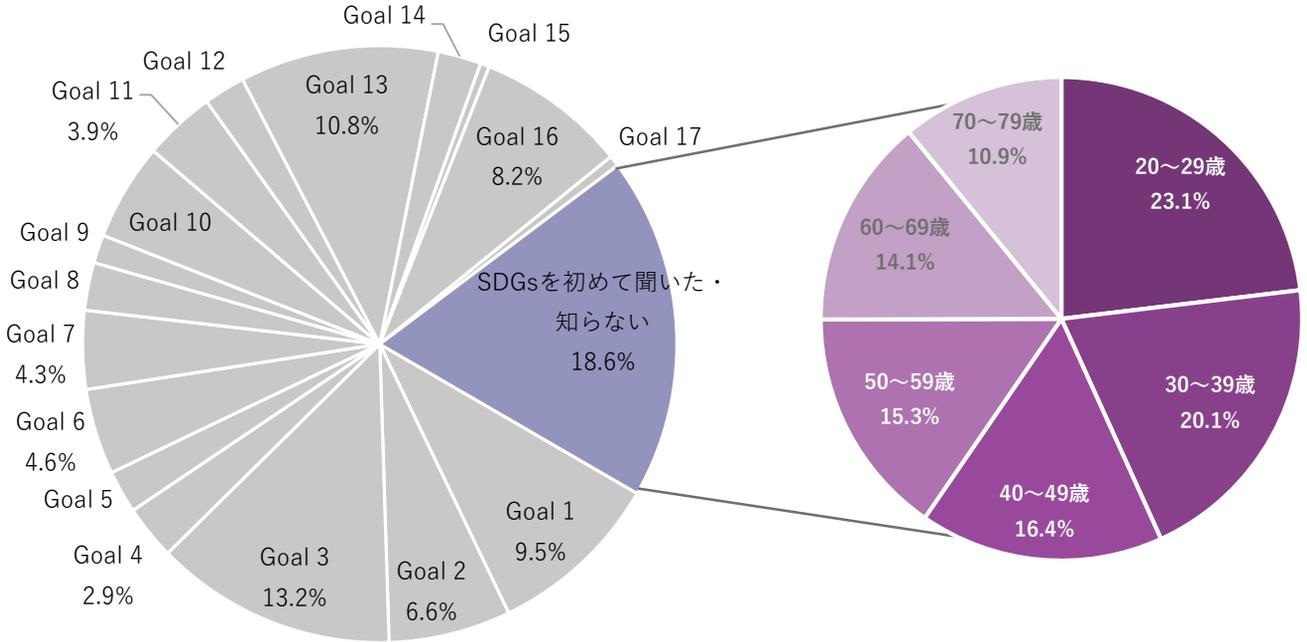
1. SDGs・気候変動に関する意識調査 ～SDGsの認知度～

「SDGsを初めて聞いて・知らない」と回答した人の割合は20代が最も高い

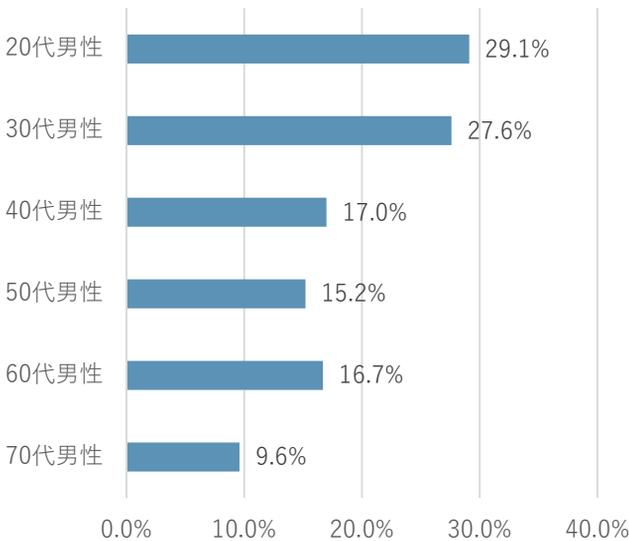
「SDGsを初めて聞いた・知らない」と答えた人の割合は全体で18.6%。世代別でみると20代が最も多く、70代が最も低い。世代間の差は男性の方が大きく、女性は世代間の差が最大6.6ポイントと少ない一方で、男性は最大20ポイント程度となった。

Q1.SDGs（持続可能な開発目標）17の目標のうち、最も大切だと思うものを1つお答えください※

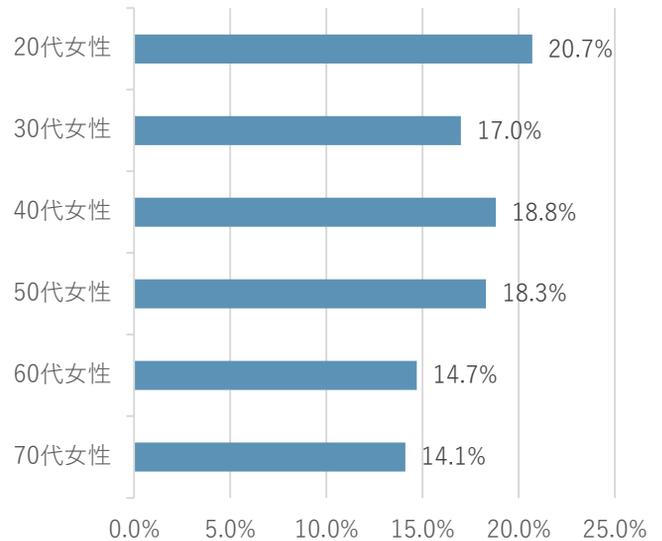
図表1.1 SDGs（持続可能な開発目標）17の目標のうち、最も大切と思う目標 (n=3,056)



図表1.2 SDGsを初めて聞いた・知らないと回答した人の割合（男性・年齢別）



図表1.3 SDGsを初めて聞いた・知らないと回答した人の割合（女性・年齢別）



※) SDGsの17の目標に優先順位はつけることができないと考えるが、世代間・年代間の意識の差を調査するために、本質問を設定した。

1. SDGs・気候変動に関する意識調査 ～SDGsで最も大切だと思う目標（1）～

最も大切だと思うSDGsの目標は、世代間でばらつき

最も大切だと思うSDGsの目標としては、Goal 3（すべての人に健康と福祉を）が全世代で上位2位以内、Goal16（平和と公正をすべての人に）も全世代で選ばれた。Goal13（気候変動に具体的な対策を）は40代以降で上位3位に入るが、40代以下ではGoal1（貧困をなくそう）が上位2位以内となる。また、20代、30代では、Goal 7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）、Goal 10（人や国の不平等をなくそう）、Goal 11（住み続けられる街づくりを）といった、他の世代では選ばれなかったテーマが上位に入り、最も大切だと思うSDGsの目標は世代間でばらつきがあることが確認できた。

Q1.SDGs（持続可能な開発目標）17の目標のうち、最も大切だと思うものを1つお答えください

図表2 世代別最も大切だと思うSDGsの目標上位5位

	1位	2位	3位	4位	5位
全世代	Goal 3 (13.2%)	Goal 13 (10.8%)	Goal 1 (9.5%)	Goal 16 (8.2%)	Goal 2 (6.6%)
20代	Goal 3 (11.6%)	Goal 1 (10.1%)	Goal 10 (6.4%)	Goal 16 (5.6%)	Goal 11 (4.8%)
30代	Goal 1 (11.0%)	Goal 3 (10.2%)	Goal 16 (7.7%)	Goal 2 (6.1%)	Goal 7, Goal 10 (5.3%)
40代	Goal 3 (12.2%)	Goal 1 (11.2%)	Goal 13 (9.2%)	Goal 16 (8.1%)	Goal 2 (5.7%)
50代	Goal 3, Goal 13 (12.3%)		Goal 16 (8.7%)	Goal 2 (8.5%)	Goal 1 (7.9%)
60代	Goal 13 (18.9%)	Goal 3 (17.5%)	Goal 16 (8.7%)	Goal 1 (7.4%)	Goal 2 (6.4%)
70代	Goal 13 (16.9%)	Goal 3 (15.2%)	Goal 16 (10.3%)	Goal 1 (9.5%)	Goal 2 (8.8%)

- Goal 1 貧困をなくそう
- Goal 10 人や国の不平等をなくそう
- Goal 2 飢餓をゼロに
- Goal 11 住み続けられるまちづくりを
- Goal 3 すべての人に健康と福祉を
- Goal 13 気候変動に具体的な対策を
- Goal 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- Goal 16 平和と公正をすべての人に

1. SDGs・気候変動に関する意識調査 ～SDGsで最も大切だと思う目標（2）～

最も大切だと思うSDGsの目標は男女でもばらつき

最も大切だと思うSDGsの目標の回答結果をさらに男女別で集計すると、20～40代男性ではGoal 1が1位となるが、同世代の女性ではGoal 3が1位となる。70代では、男女ともにGoal 13が1位。また、20代～40代男性ではGoal 8（働きがいも経済成長も）が上位5位に入る。Goal 5（ジェンダー平等を実現しよう）は20代女性の4位に唯一入るほか、Goal 6（安全な水とトイレを世界中に）は50代と60代女性に選ばれるなど、世代だけでなく、男女間でもばらつきがあることが確認できた。

Q1.SDGs（持続可能な開発目標）17の目標のうち、最も大切だと思うものを1つお答えください

図表3 世代別・男女別最も大切だと思うSDGsの目標上位5位

性別	1位	2位	3位	4位	5位
男性	1位	2位	3位	4位	5位
20代	Goal 1 (11.6%)	Goal 3 (8.4%)	Goal 4, Goal 10 (5.6%)		Goal 8 (5.2%)
30代	Goal 1 (12.8%)	Goal 3 (8.4%)	Goal 8 (6.4%)	Goal 11 (4.8%)	Goal 16 (4.4%)
40代	Goal 1 (13.4%)	Goal 16 (9.1%)	Goal 13 (8.3%)	Goal 3 (7.9%)	Goal 8 (5.5%)
50代	Goal 13 (12.4%)	Goal 3 (11.2%)	Goal 1 (10.8%)	Goal 16 (9.6%)	Goal 2 (8.4%)
60代	Goal 3 (19.9%)	Goal 13 (17.1%)	Goal 16 (9.2%)	Goal 1 (8.0%)	Goal 2 (6.0%)
70代	Goal 13 (19.6%)	Goal 3 (16.4%)	Goal 16 (11.6%)	Goal 2 (8.8%)	Goal 1 (8.0%)
女性	1位	2位	3位	4位	5位
20代	Goal 3 (15.5%)	Goal 1 (8.8%)	Goal 10 (7.2%)	Goal 5, Goal 16 (6.8%)	
30代	Goal 3 (12.3%)	Goal 16 (10.7%)	Goal 1 (9.5%)	Goal 2 (7.9%)	Goal 10 (7.1%)
40代	Goal 3 (16.8%)	Goal 13 (10.4%)	Goal 1 (8.8%)	Goal 2, Goal 16 (7.2%)	
50代	Goal 3 (13.5%)	Goal 13 (12.4%)	Goal 2 (8.8%)	Goal 16 (8.0%)	Goal 6 (6.8%)
60代	Goal 13 (20.7%)	Goal 3 (15.1%)	Goal 6 (9.2%)	Goal 16 (8.4%)	Goal 1, Goal 2 (6.8%)
70代	Goal 13 (14.5%)	Goal 3 (14.1%)	Goal 1 (10.7%)	Goal 16 (9.2%)	Goal 2 (8.8%)

- Goal 1 貧困をなくそう
- Goal 2 飢餓をゼロに
- Goal 3 すべての人に健康と福祉を
- Goal 4 質の高い教育をみんなに

- Goal 5 ジェンダー平等を実現しよう
- Goal 6 安全な水とトイレを世界中に
- Goal 8 働きがいも経済成長も
- Goal 10 人や国の不平等をなくそう

- Goal 11 住み続けられるまちづくりを
- Goal 13 気候変動に具体的な対策を
- Goal 16 平和と公正をすべての人に

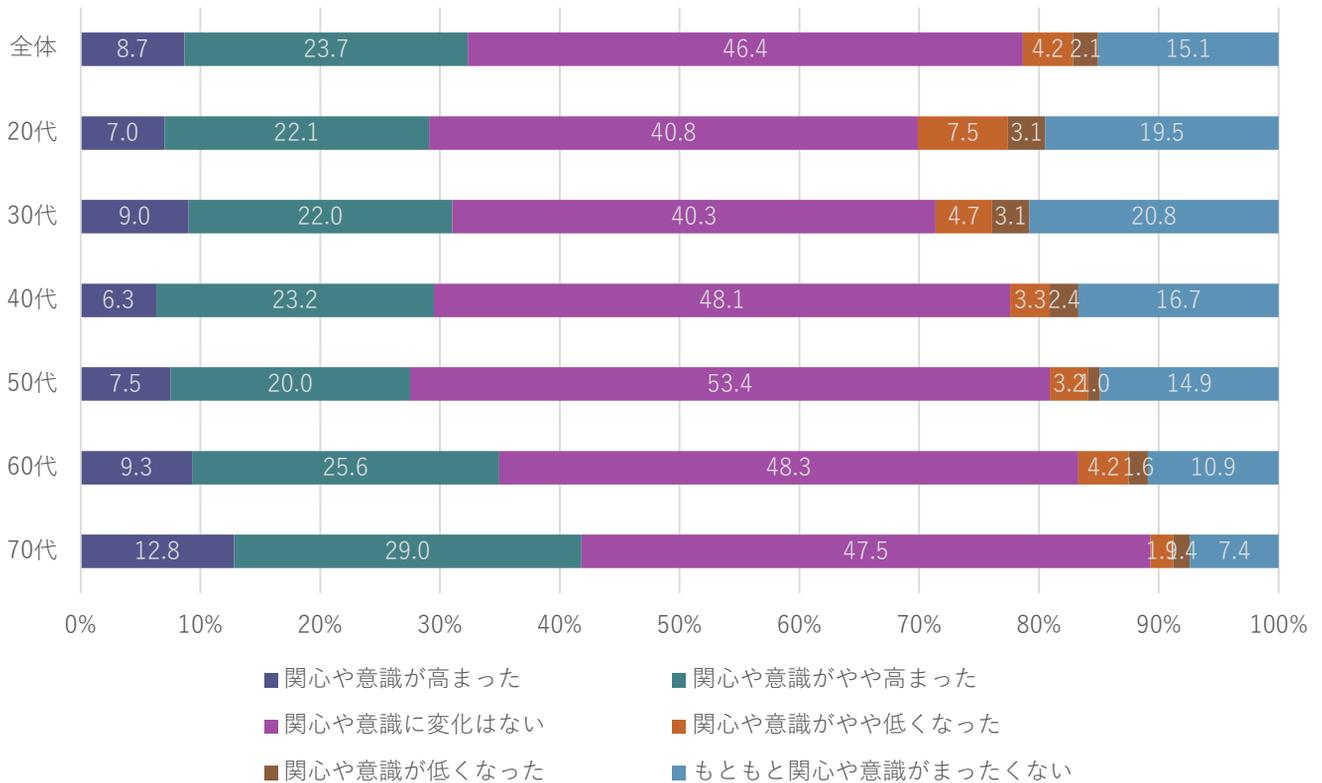
1. SDGs・気候変動に関する意識調査 ～新型コロナウイルスのSDGsの認知度への影響～

新型コロナウイルスの感染拡大でSDGsへの関心が高まった人の割合は約1/3

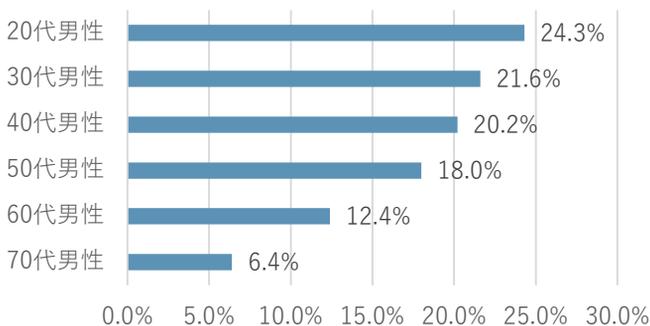
新型コロナウイルスの感染拡大によるSDGsへの関心の変化を質問したところ、「関心や意識が高まった」、「関心や意識がやや高まった」と回答した人の割合は、全体で32.3%と約1/3となった。世代別にみると、70代で最も比率が高く、20代で最も低い。また、「もともと関心や意識がまったくない」人の割合は20代、30代が多い。男女別では、男性で世代別の差が大きく、20代男性の割合が24.3%と最も高い。

Q2. 新型コロナウイルス禍を受けてSDGsへの関心や意識が変わりましたか（単一回答）

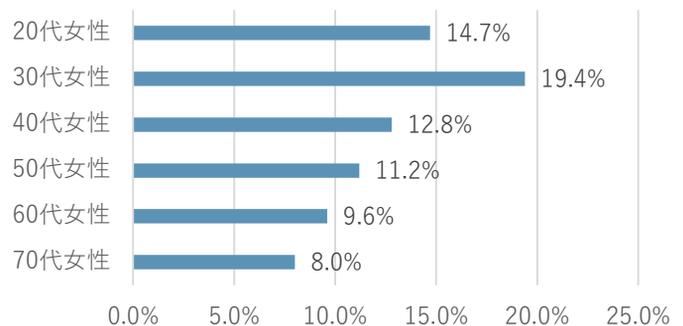
図表4.1 新型コロナウイルス禍を受けたSDGsへの関心や意識の変化（世代別）



図表4.2 SDGsにもともと関心や意識が全くないと回答した人（男性・世代別）



図表4.3 SDGsにもともと関心や意識が全くないと回答した人（女性・世代別）



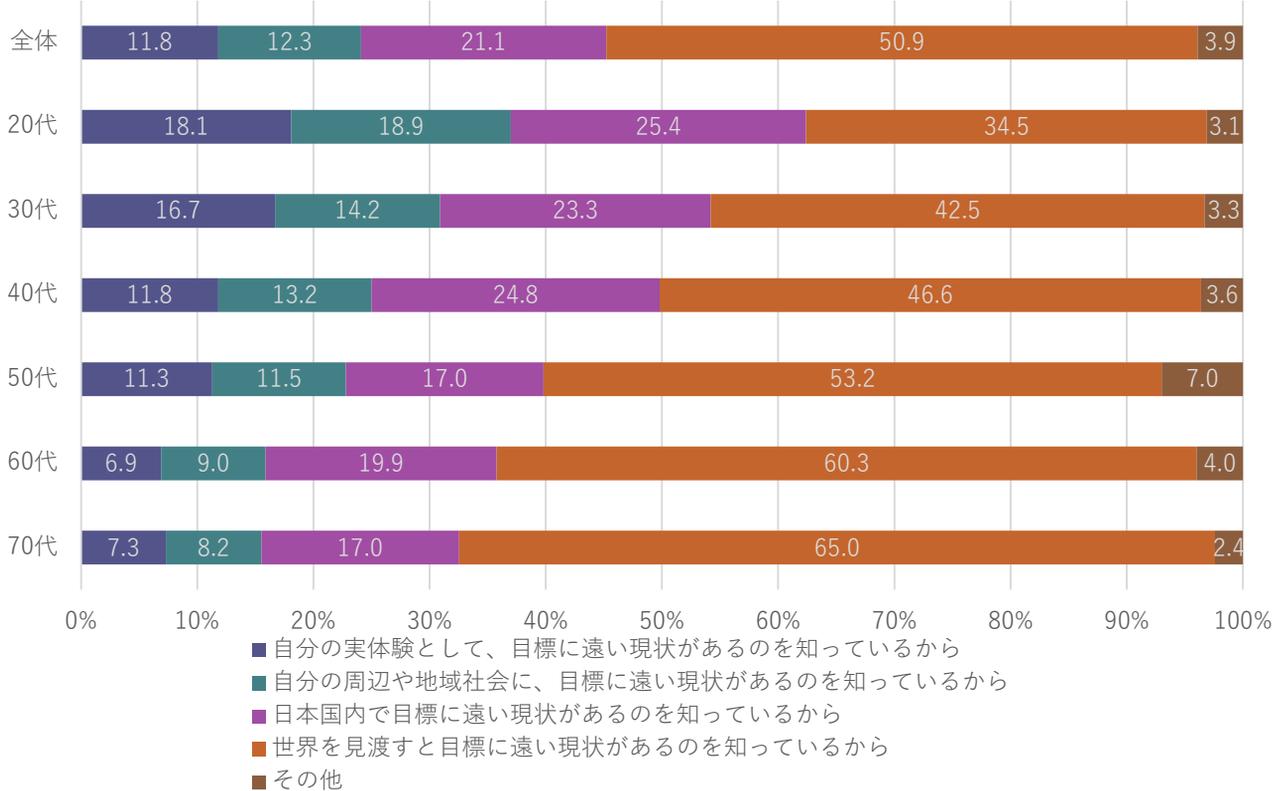
1. SDGs・気候変動に関する意識調査 ～最も大切だと思うSDGs目標を選んだ理由～

最も大切だと思うSDGsの目標を選んだ理由は、長期のグローバルな課題が約半数

最も大切だと思うSDGsの目標を選んだ理由として、全体の約半数が「世界を見渡すと目標に遠い現状があるのを知っているから」と回答し、解決しなくてはならない長期のグローバルな課題であることを理由にあげた。その割合は、70代で高く20代で低い。20代は身近な課題、地域社会、国内の目標の方が比率が高くなっている。男女間でみると女性の方が世界の課題と捉える傾向が強い一方で、20代、30代の男性の6割以上が国内や身近な課題を理由とした。

Q3. (SDGsを初めて聞いた・知らないと答えた人以外) 最も大切だと思うSDGsの目標を選んだ理由をお答えください (n=2,489)

図表5.1 最も大切だと思うSDGsの目標を選んだ理由 (世代別)



図表5.2 男性・年齢別



図表5.3 女性・年齢別



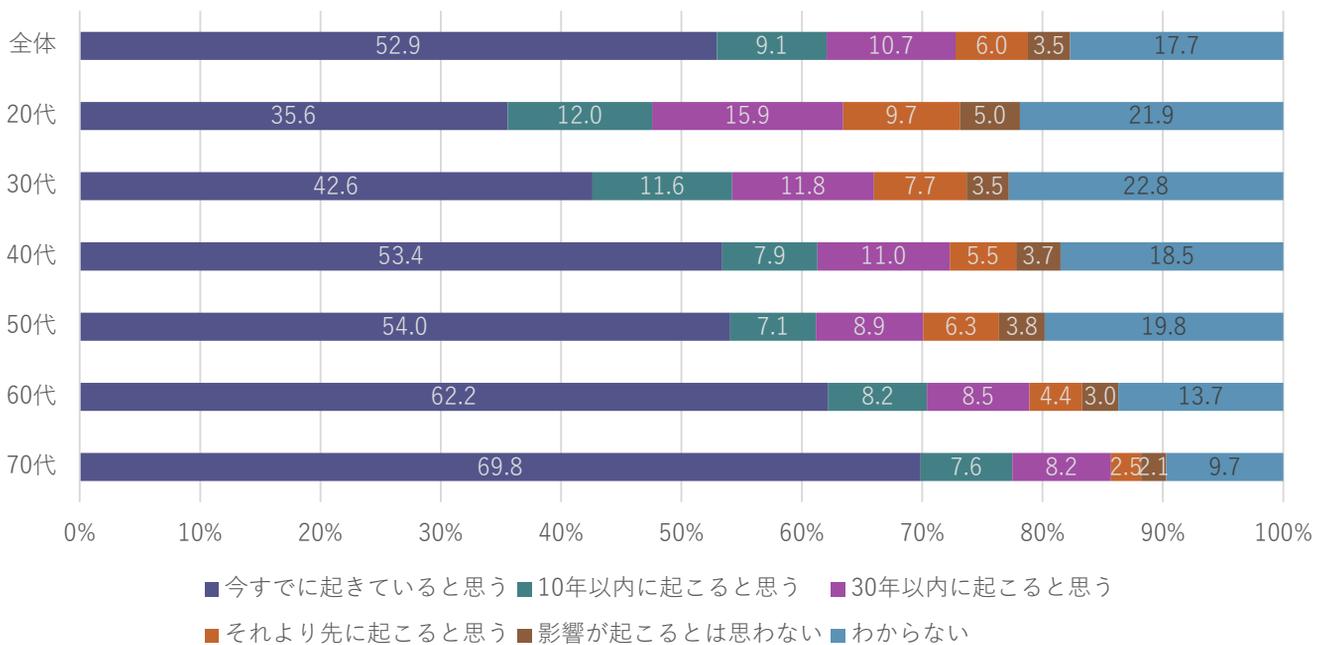
1. SDGs・気候変動に関する意識調査 ～気候変動課題に対する認識～

**地球温暖化の影響が「すでに起きている」と回答した人は全体の半数以上
20代の4割は地球温暖化の影響はまだ起きてないと認識**

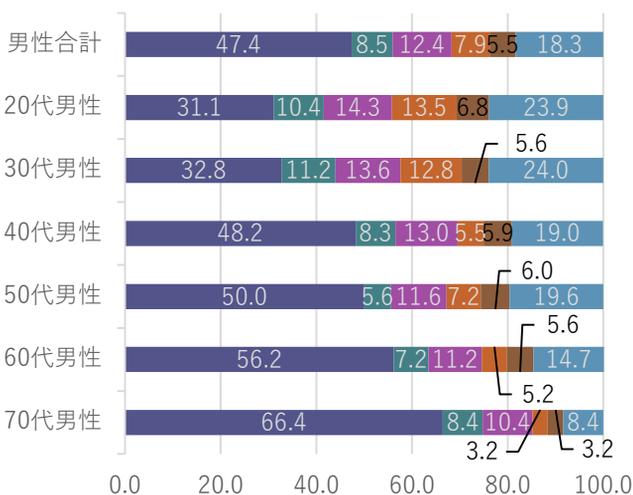
地球温暖化の影響がすでに起きていると回答した人は全体の52.9%。世代が上がるほどすでに起きていると回答した人の割合が高くなり、70代の割合（69.8%）は、20代（35.6%）の約2倍となった。20代では、10年以内・30年以内・それより先を合わせた将来起こると思う合計の37.5%の方が「今すでに起きている」の35.6%より高く、他の世代に比べ、現時点における地球温暖化の影響を認識していない人の割合が高い。男女別では、全世代において男性の方が現時点における地球温暖化の影響を認識していない人の割合が高い。

Q4. 地球温暖化が私たちの生活に及ぼす影響はいつ頃起こると思いますか（単一回答、n=3,056）

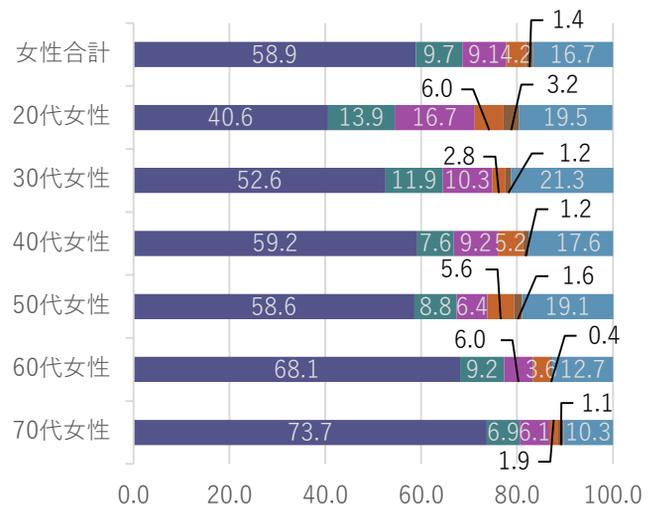
図表6.1 地球温暖化の影響が起こる時期の認識（世代別）



図表6.2 男性・年齢別



図表6.3 女性・年齢別



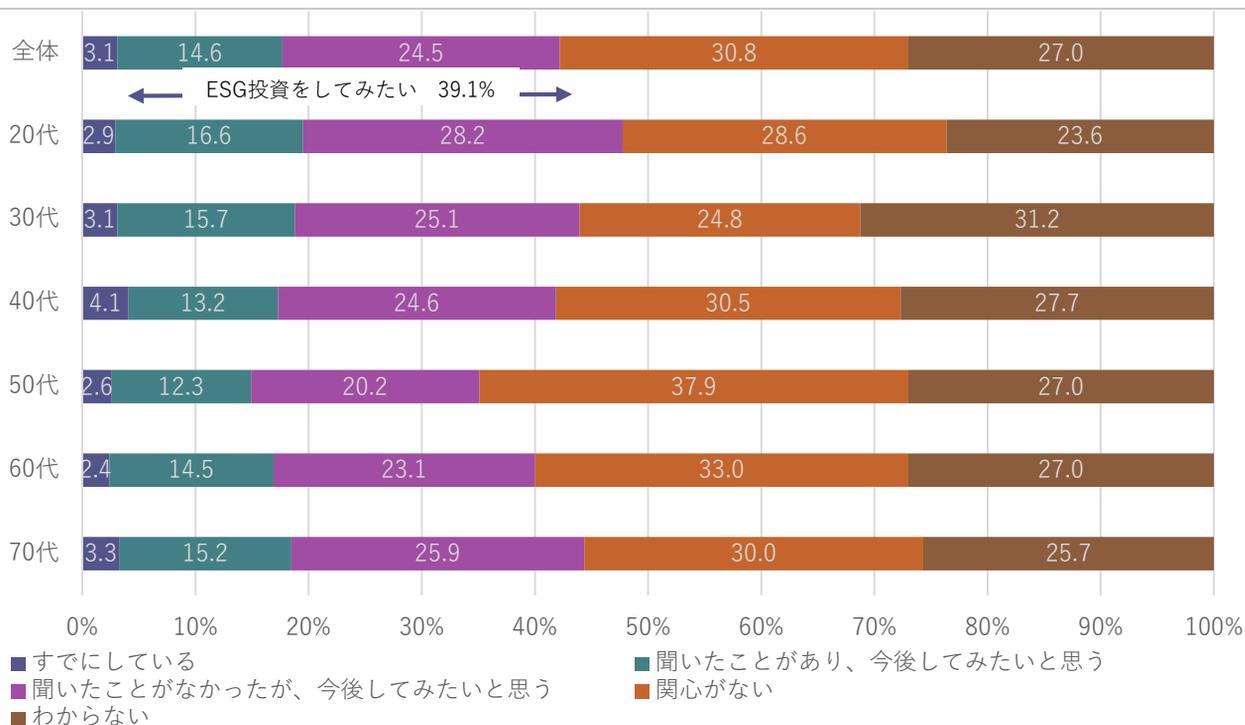
2. ESG投資意識調査 ～ESG投資の認知度～

ESG投資の認知度は17.7%、男女とも20代の認知度が最も高い

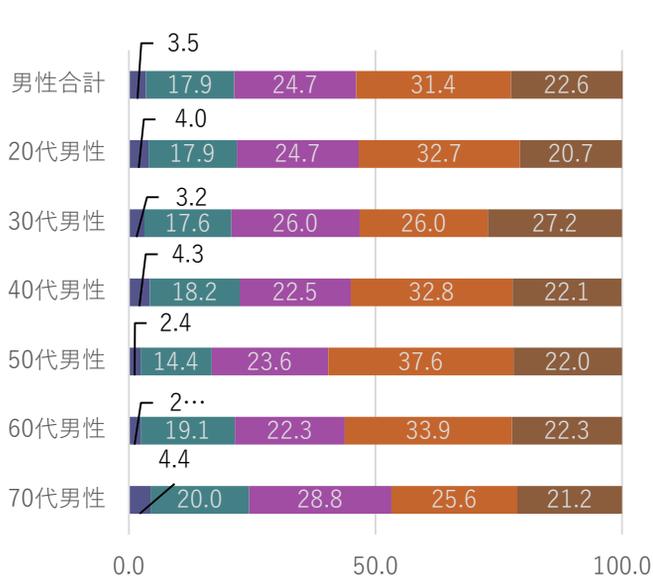
ESG投資をすでに行っている人は3.1%。聞いたことがある、と答えた人（14.6%）も含めても、ESG投資の認知度は17.7%となった。今後ESG投資をしてみたいと答えた人は全体の39.1%で、全世代で男性の割合が高い。その割合は20代が最も多く44.9%で、男性42.6%、女性47.4%となった。女性は関心がない・分からないと答えた人が全体の約6割を占める。

Q5. ESG投資をしてみたいと思いますか（単一回答、n=3,056）

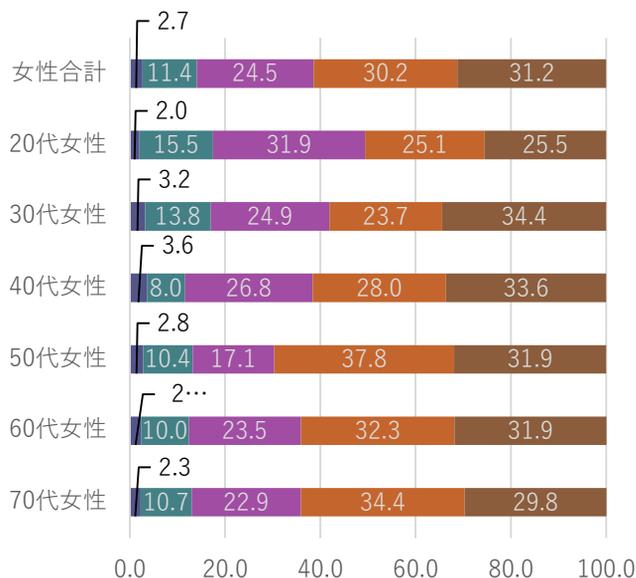
図表7.1 ESG投資に対する関心（世代別）



図表7.2 男性・年齢別



図表7.3 女性・年齢別



2. ESG投資意識調査 ～重視するESG課題～

ESGの中ではE（環境）への関心が34.2%と最も高い

ESG（環境、社会、ガバナンス）の中では、E（環境）への関心が34.2%と最も高く、世代が上がるほどその割合は高くなる。逆に、世代が下がるほどS（社会）への関心は上がり、20代では社会への関心（24.2%）が環境（21.7%）を上回る。この傾向は、20代と30代男性のみで確認できる。同世代の女性では、環境への関心が社会への関心を上回る。女性では「わからない」と回答した人の割合も50%近くあり、前ページの図7同様ESG投資が浸透していないことを示す結果となった。

Q6. ESG投資をしたらどの要素を一番重視しますか（単一回答、全体n=3,056）

図表8.1 ESG投資をする場合の重視する要素

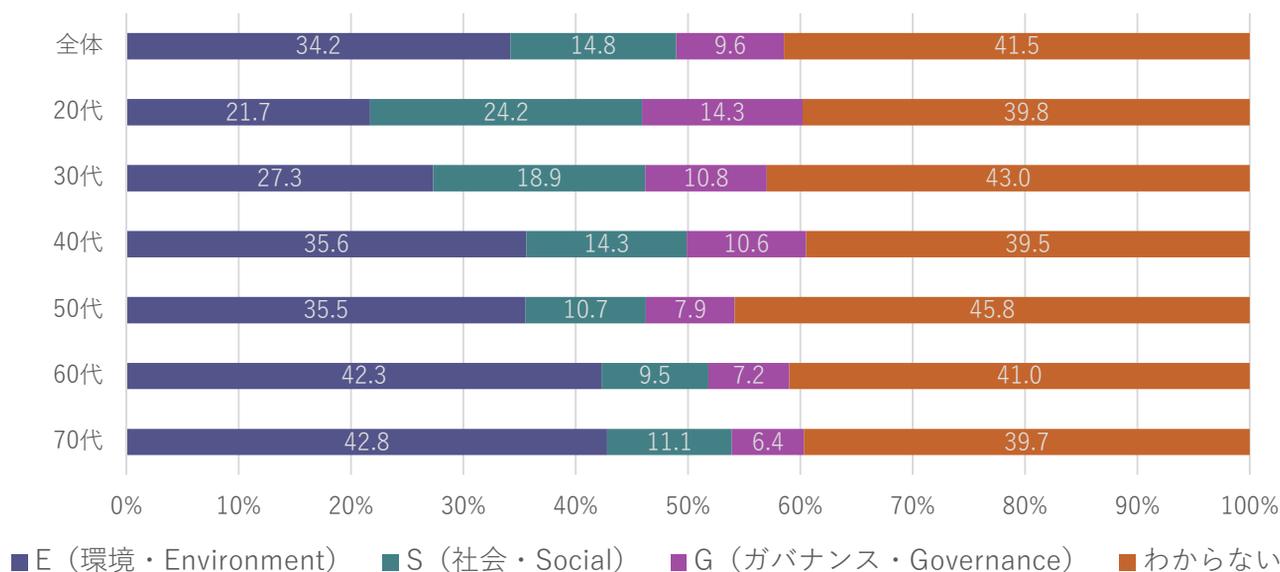


図8.2 男性・年齢別

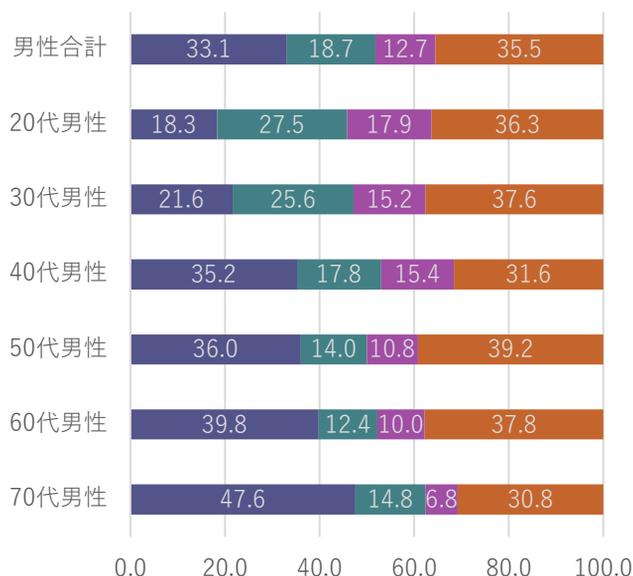
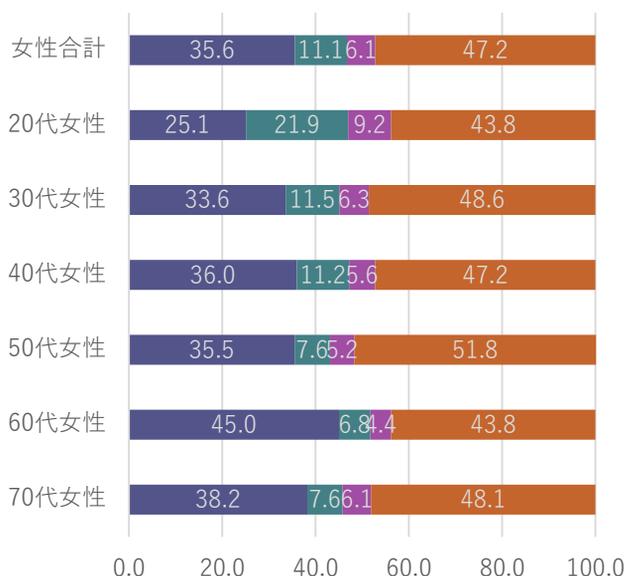


図8.3 女性・年齢別



2. ESG投資意識調査 ～ESG投資に対する関心（1）～

ESG投資に関心のある主な理由は「環境や社会への影響を考慮したいから」
関心がない主な理由は「投資判断する情報が十分でないから」

ESG投資をすでにしている、関心があると答えた理由を聞いたところ、「環境や社会にとって良いことをしたいから」と「自分のお金が悪いことに使われたくないから」を選択した回答の合計が56.2%と半数を超え、投資した企業が与える環境、社会への影響を考慮することを理由に挙げた。ESG投資をすでにしている、関心がある人の中でも、リターンにつながるとことを理由にあげたのは15.6%となった。ESG投資に関心がない理由は、「リターンとの関連性が分からない」が37.6%、「金融商品のESG情報が少なく判断できないから」が25.2%と、投資判断する情報が十分でないからとなった。

図表9 ESG投資への関心の有無とその理由のクロス集計結果（複数回答、n=3,514）

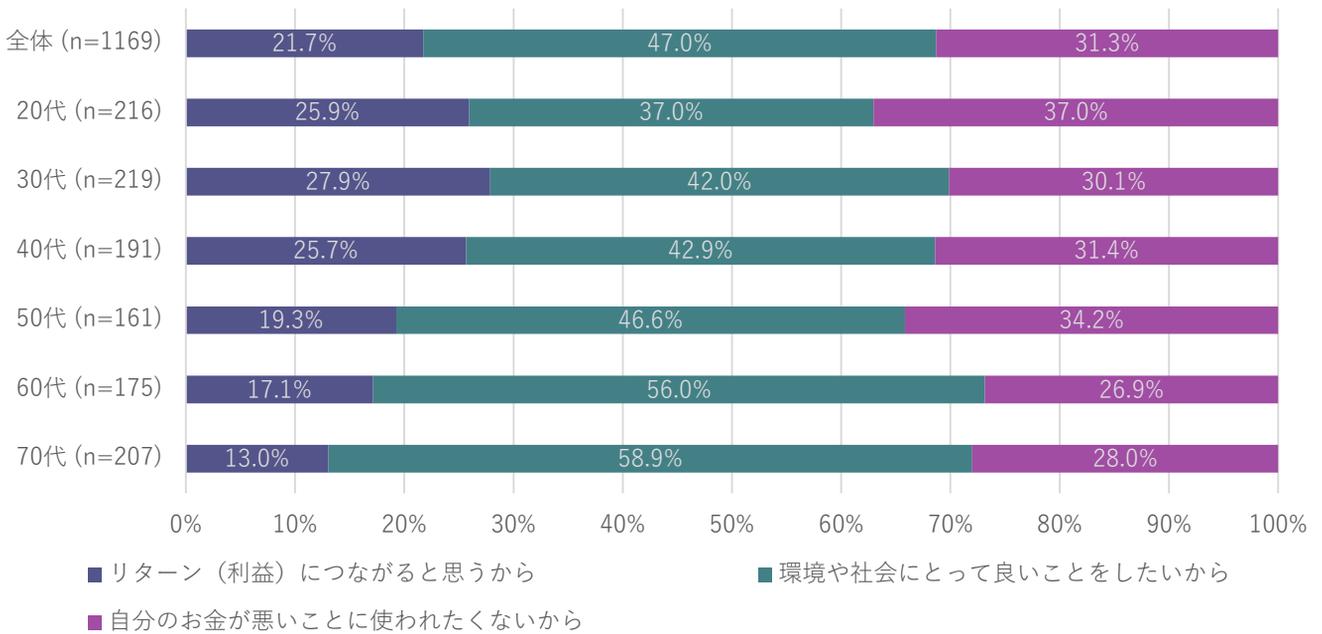
	リターンにつながると思うから	環境や社会にとって良いことをしたいから	自分のお金が悪いことに使われたくないから	リターンとの関連性がわからないから	金融商品のESG情報が少なく判断できないから	リターンが少なくなると思うから	その他	述べ回答数
すでにしている・関心あり合計	254人 (15.6%)	549人 (33.7%)	366人 (22.5%)	—	—	—	459人 (28.2%)	1628人 (100%)
すでにしている	45人 (33.3%)	45人 (33.3%)	24人 (17.8%)	—	—	—	21人 (15.6%)	135人 (100%)
聞いたことがあり、今後してみたいと思う	110人 (18.8%)	230人 (39.2%)	143人 (24.4%)	—	—	—	103人 (17.6%)	586人 (100%)
聞いたことがなかったが、今後してみたいと思う	99人 (10.9%)	274人 (30.2%)	199人 (21.9%)	—	—	—	335人 (36.9%)	907人 (100%)
関心がない	—	—	—	399人 (37.6%)	267人 (25.2%)	153人 (14.4%)	241人 (22.7%)	1060人 (100%)
分からない	—	—	—	—	—	—	—	826人

2. ESG投資意識調査 ～ESG投資に対する関心（2）～

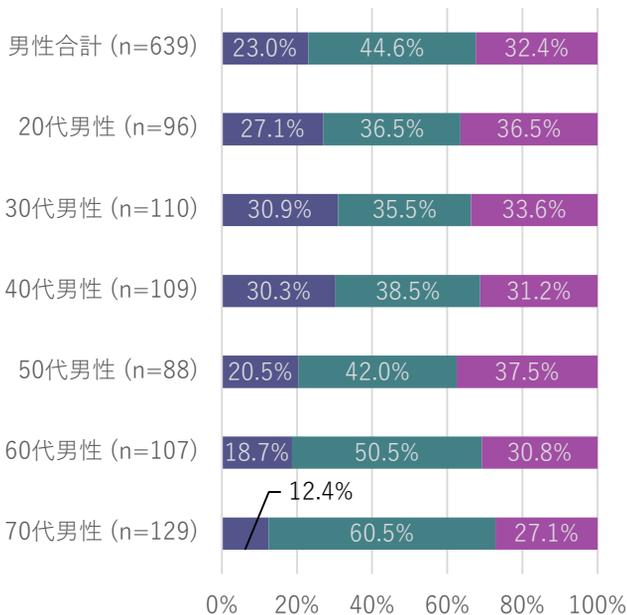
ESG投資に関心のある理由は環境や社会への影響を考慮したいからが8割を超え、その割合は女性の方が高い

ESG投資に関心のある理由を具体的に選択した人（その他を除く）に絞って集計したところ、「環境や社会にとって良いことをしたいから」と「自分のお金が悪いことに使われたくないから」の合計が全体の約8割。投資した企業が与える環境、社会への影響を考慮することを理由に挙げた。世代別にみると、この傾向は年齢が高くなるほど高くなり、男女とも70代では85%を超える。男女別でみると、70代を除く全世代で女性の方が男性より高かった。

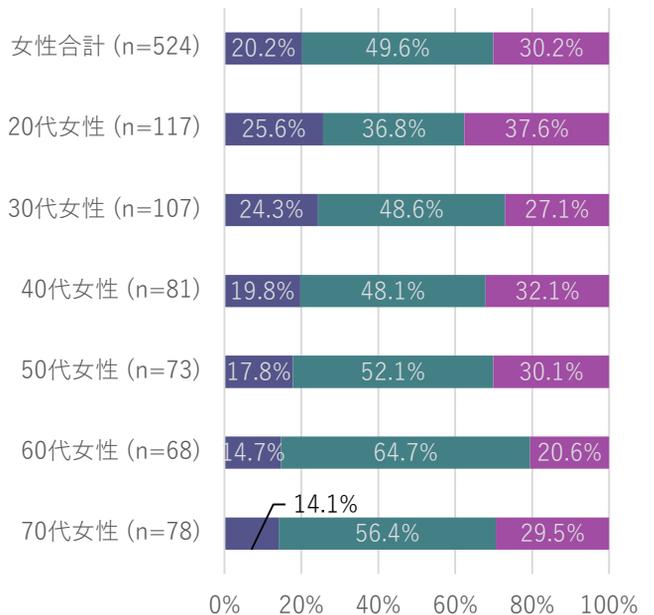
図表10.1 ESG投資をすでにしている人・関心がある人のその理由（複数回答、n=1,169）



図表10.2 男性・世代別



図表10.3 女性・世代別

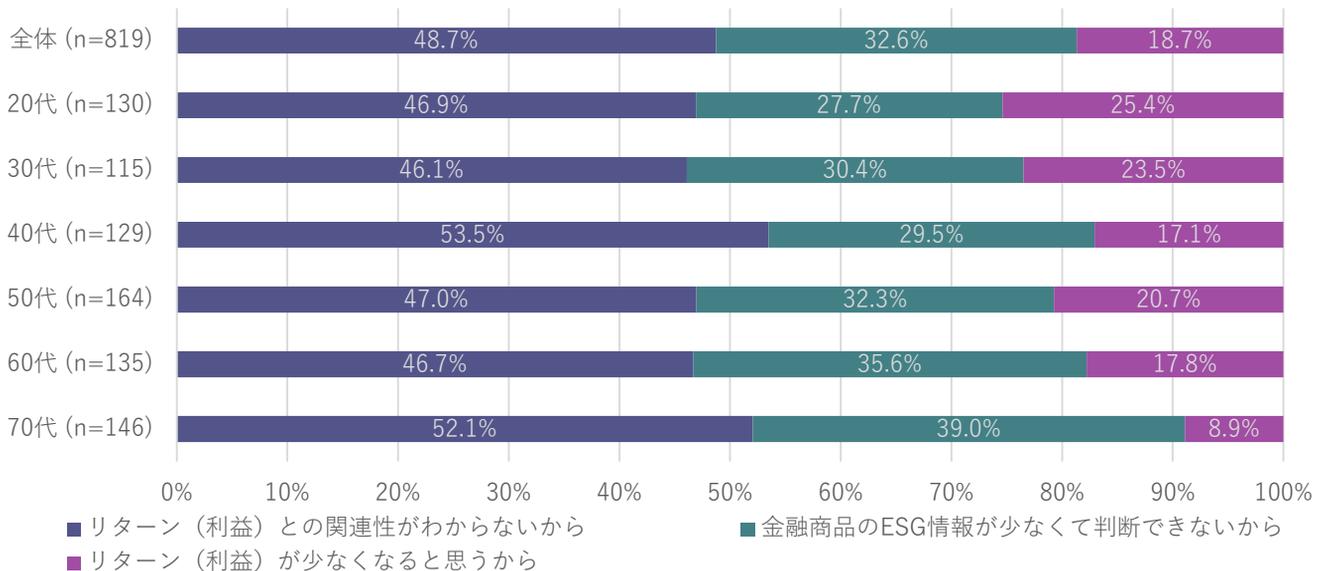


2. ESG投資意識調査 ～ESG投資に対する関心（3）～

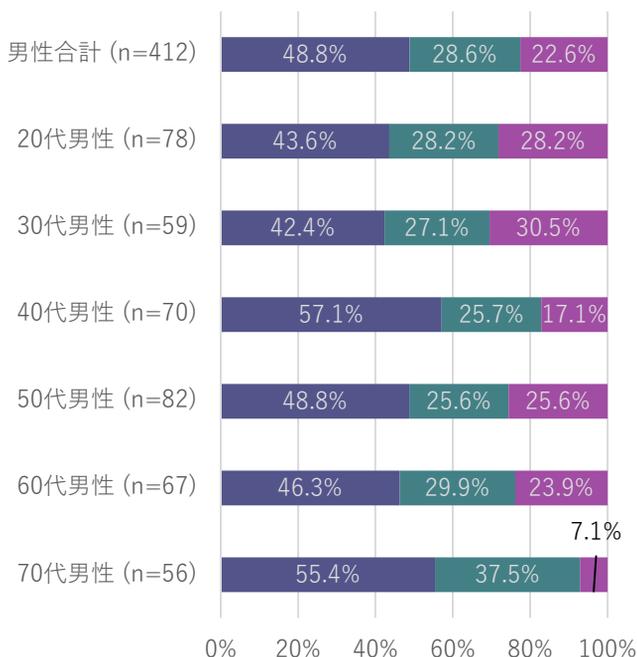
ESG投資に関心がない主な理由は投資判断する情報が十分でないからが8割を超え、その割合は女性の方が高い

ESG投資に関心がない理由を具体的に選択した人（その他を除く）に絞って集計したところ、「リターンとの関連性がわからない」と「金融商品のESG情報が少なく判断できないから」の合計が8割を超え、投資判断する情報が十分でないことを理由にあげた。世代別でみると、年齢が高くなるほどその割合は増え、70代では90%を超える。男女別では、70代を除くすべての世代で、女性の方がその割合が高くなった。

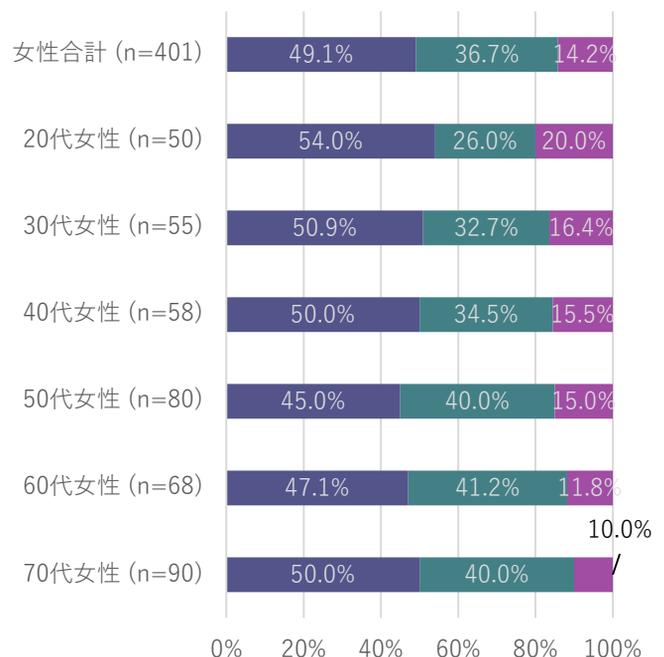
図表11.1 ESG投資に関心がない人のその理由（複数回答、n=819）



図表11.2 男性・世代別



図表11.3 女性・世代別



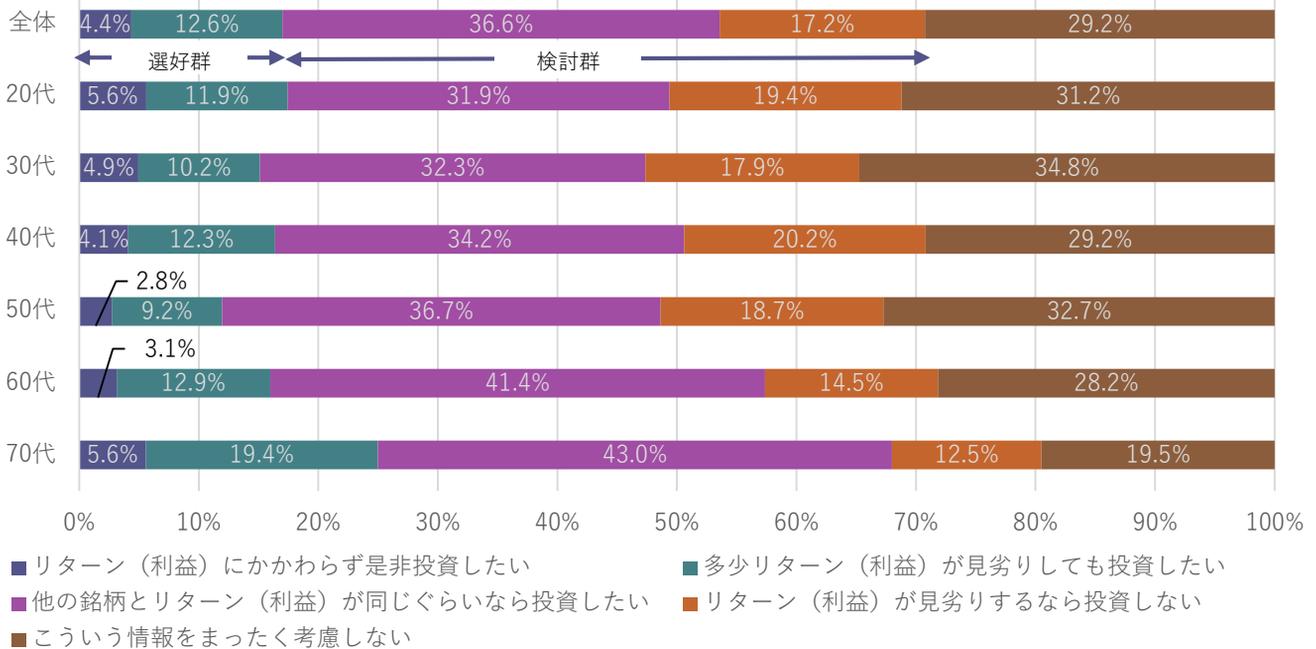
2. ESG投資意識調査

～リターンとサステナビリティ選好（1）～

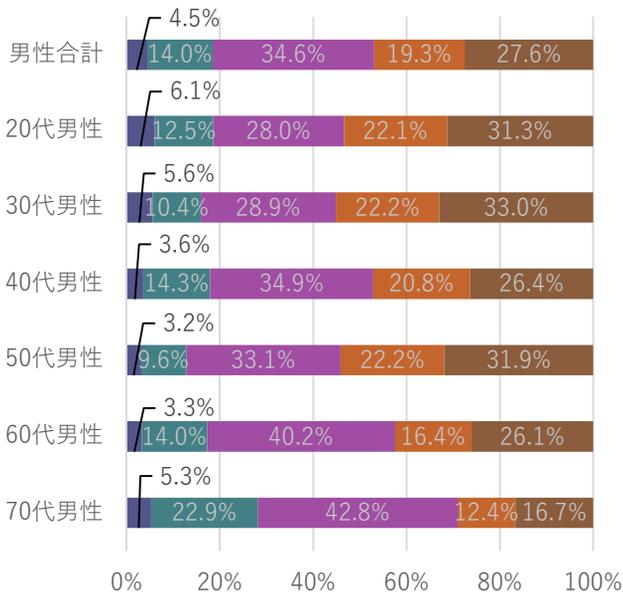
リターンよりもESGを優先する人は全体の17.0%、世代別では70代が最多

リターンに関わらず投資したい、リターンが見劣りしても投資したい、と回答した人（= ESG投資選好群）の合計は17.0%。世代別にみると、最も高いのは70代、次が20代となる。50代が最も少なく緩やかな「くの字」型の傾向が確認できる。「リターンが同じくらいなら投資したい」、「リターンが見劣りするなら投資しない」というリターン次第で企業の取り組みを考慮する人（= ESG投資検討群）は全体の53.8%で、ESG投資選好群との合計は70.8%。男女別では、男性の方がESG投資選好群の比率が高い。

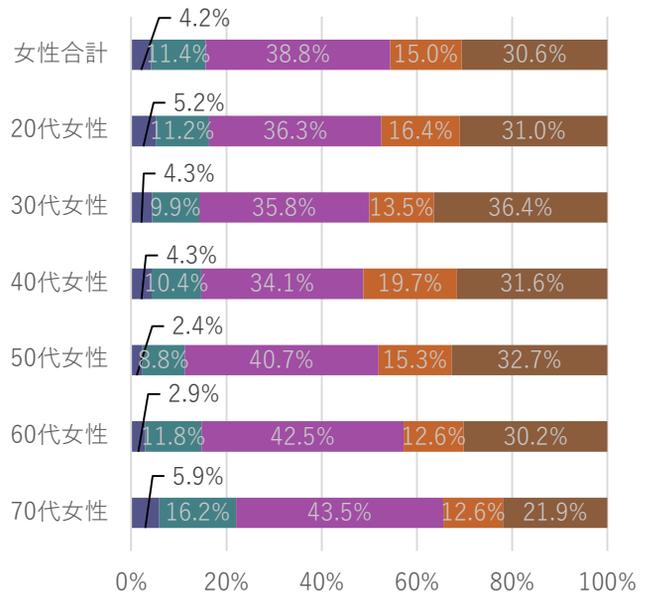
図表12.1 投資判断に企業のサステナビリティ課題の取り組みを考慮する人の割合（世代別）



図表12.2 男性・世代別



図表12.3 女性・世代別



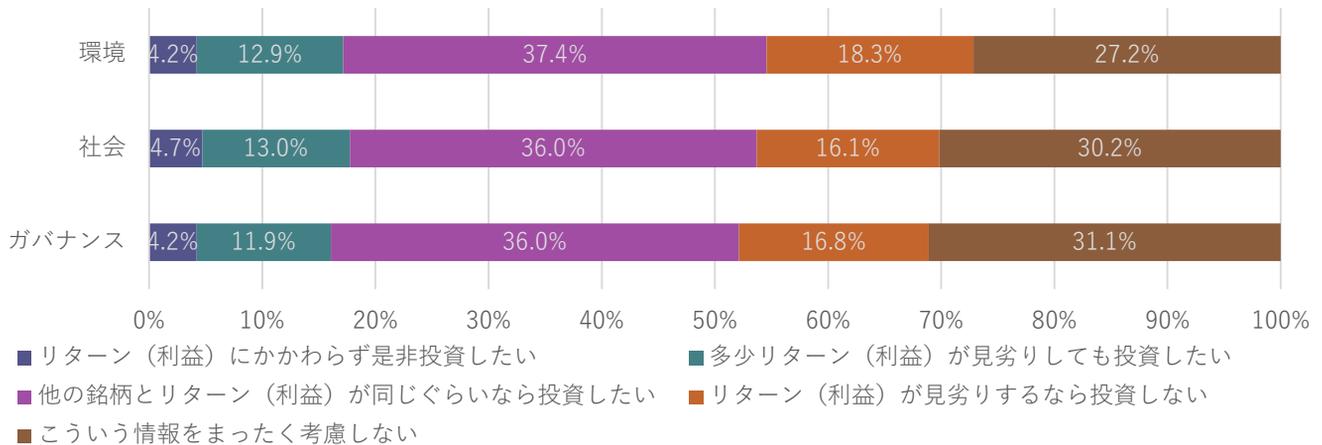
2. ESG投資意識調査

～リターンとサステナビリティ選好（2）～

投資判断に考慮するサステナビリティ課題をESG別にみると、ESG投資選好群では社会課題が最多

サステナビリティ課題別にみると、ESG投資選好群では、人権が1位。ESG投資検討群では、水が1位、次いで森林、生物多様性と主に環境関連課題が上位となった。

図表13.1 投資判断に企業のサステナビリティ課題の取り組みを考慮する人の割合（ESG別）



図表13.2 投資判断に企業のサステナビリティ課題の取り組みを考慮する人の割合（サステナビリティ課題別）



2. ESG投資意識調査

～リターンとサステナビリティ選好（3）～

ESG投資選好群の30代から50代の男女ともに投資の際に最優先するサステナビリティとして人権課題がトップ

ESG投資選好群の最優先課題を、男女別・世代別に見ると、男女ともに、20代では生物多様性、30代～50代では人権が1位となる。取締役会の多様性が60代男性及び70代女性の1位、70代男性の3位となったほか、税の透明性が70代男性の2位、30代女性の3位になるなど、ガバナンス課題の取り組みに対する関心も確認できる。

図表14.1 ESG投資選好群が考慮するサステナビリティ課題上位3位（世代別・男性）

	1位	2位	3位
20代男性	環境負荷、 生物多様性		労働環境
30代男性	人権	労働環境、 環境負荷	
40代男性	人権	環境負荷	労働環境
50代男性	人権	環境負荷	森林
60代男性	組織の多様性	人権	森林、生物多様性
70代男性	人権	税の透明性	環境負荷、 組織の多様性

図表14.2 ESG投資選好群が考慮するサステナビリティ課題上位3位（世代別・女性）

	1位	2位	3位
20代女性	生物多様性	労働環境	環境負荷
30代女性	人権	水	森林、生物多様性、 税の透明性
40代女性	人権	生物多様性	労働環境
50代女性	森林、人権		生物多様性
60代女性	人権	森林	環境負荷
70代女性	組織の多様性	人権、森林	

2. ESG投資意識調査

～リターンとサステナビリティ選好（4）～

ESG投資検討群では、優先するサステナビリティ課題の上位3位を見ると、8割を環境課題が占める

ESG投資検討群では、30代以上の男性が重視するサステナビリティ課題上位1~3位は全て環境関連。同じく、20代~60代女性の1位も全て環境課題となった。テーマ別では、30代女性以外の男女で水が上位1位、2位に入った。20代男性では取締役会の多様性が1位、70代女性では地域貢献が1位となった。

図表15.1 ESG投資検討群が考慮するサステナビリティ課題上位3位（世代別・男性）

	1位	2位	3位
20代男性	組織の多様性	水、地域貢献	
30代男性	水	森林	生物多様性
40代男性	水	生物多様性	森林
50代男性	生物多様性	水	森林
60代男性	環境負荷	水	森林
70代男性	生物多様性	水	森林

図表15.2 ESG投資検討群が考慮するサステナビリティ課題上位3位（世代別・女性）

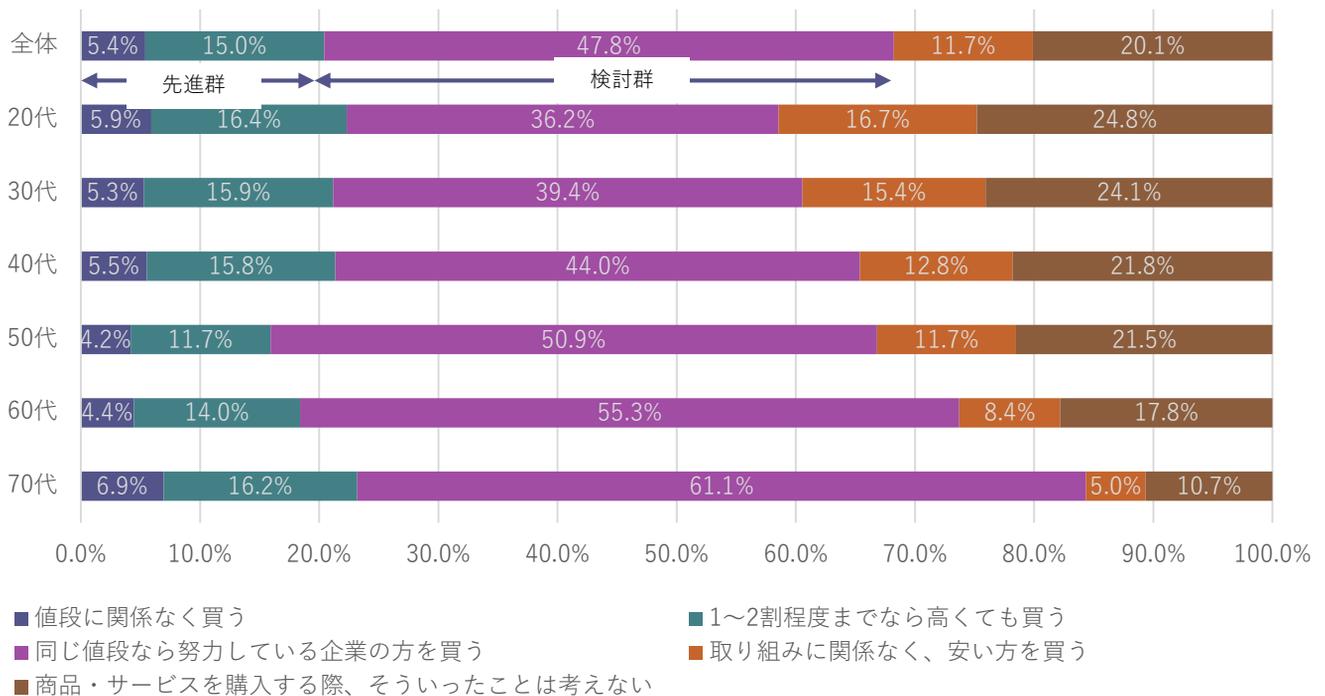
	1位	2位	3位
20代女性	水	地域貢献	森林、組織の多様性
30代女性	森林	生物多様性	組織の多様性
40代女性	水	森林	組織の多様性
50代女性	環境負荷	水	生物多様性
60代女性	水、生物多様性		森林
70代女性	地域貢献	水	環境負荷

3. サステナビリティ購買意識調査 ～価格とサステナビリティ選好（1）～

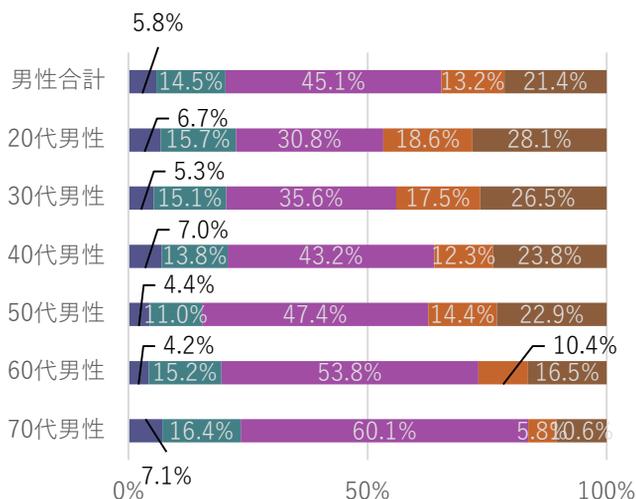
企業のサステナビリティ課題への取り組みにプレミアムを支払うと回答した人の割合は20.4%

商品やサービスの購入時に企業のサステナビリティ課題への取り組みにプレミアムを支払うと回答した人（＝エシカル消費先進群）の割合は20.4%。世代別にみると、70代が23.2%と最も高く、次いで20代（22.3%）となり、50代が最も低く、投資と同じく緩やかな「くの字」型の傾向が確認できる。「同じ値段なら努力している」企業を選ぶ、購入時にサステナビリティを一定程度考慮すると答えた人（＝エシカル消費検討群）は全体平均で47.8%、70代が61.1%と最も高く、世代が下がるほど低くなる。一方で、エシカル消費の関心が弱い（「取り組みに関係なく安い方を買う」、「そういったことは考えない」）人が最も多いのも20代（41.5%）。

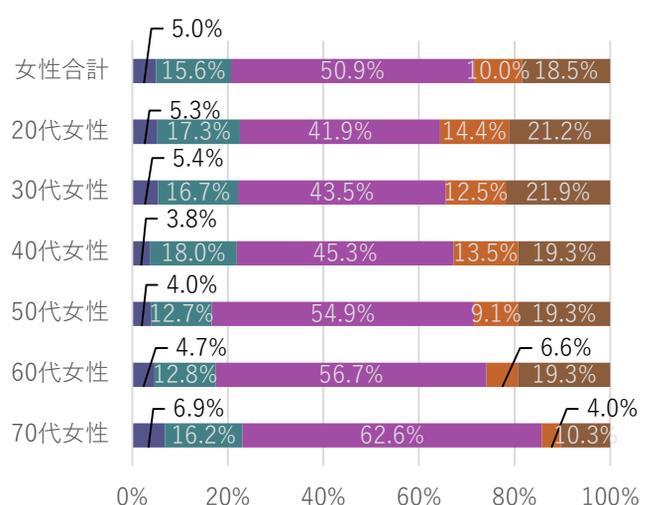
図表16.1 購買判断に企業のサステナビリティ課題の取り組みを考慮する人の割合（世代別）



図表16.2 男性・世代別



図表16.3 女性・世代別

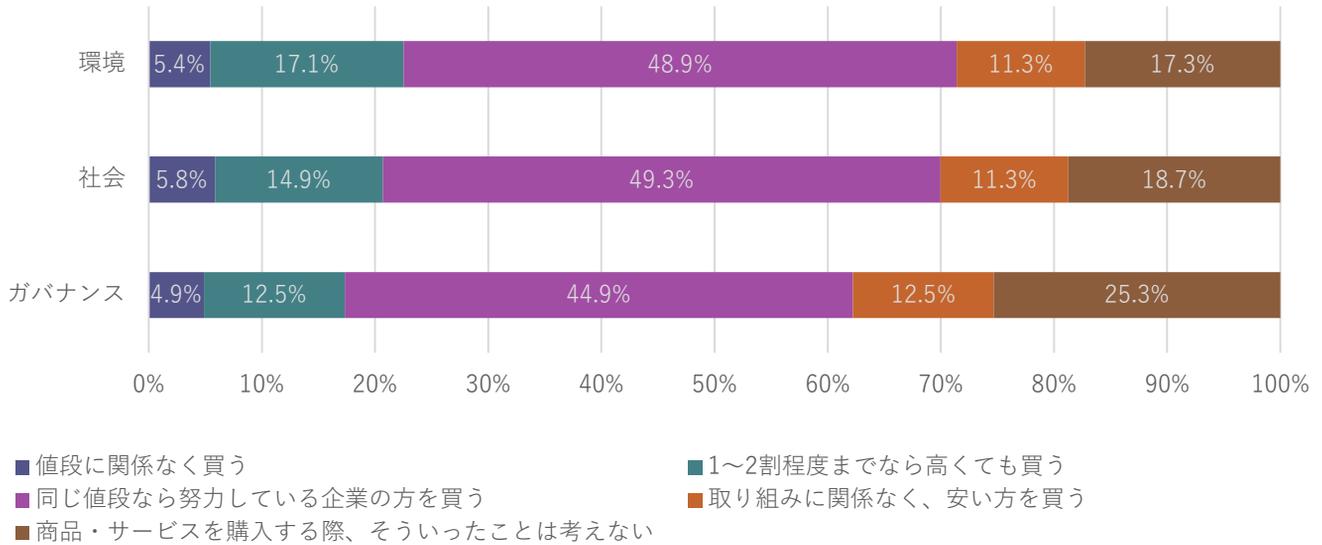


3. サステナビリティ購買意識調査 ～価格とサステナビリティ選好（2）～

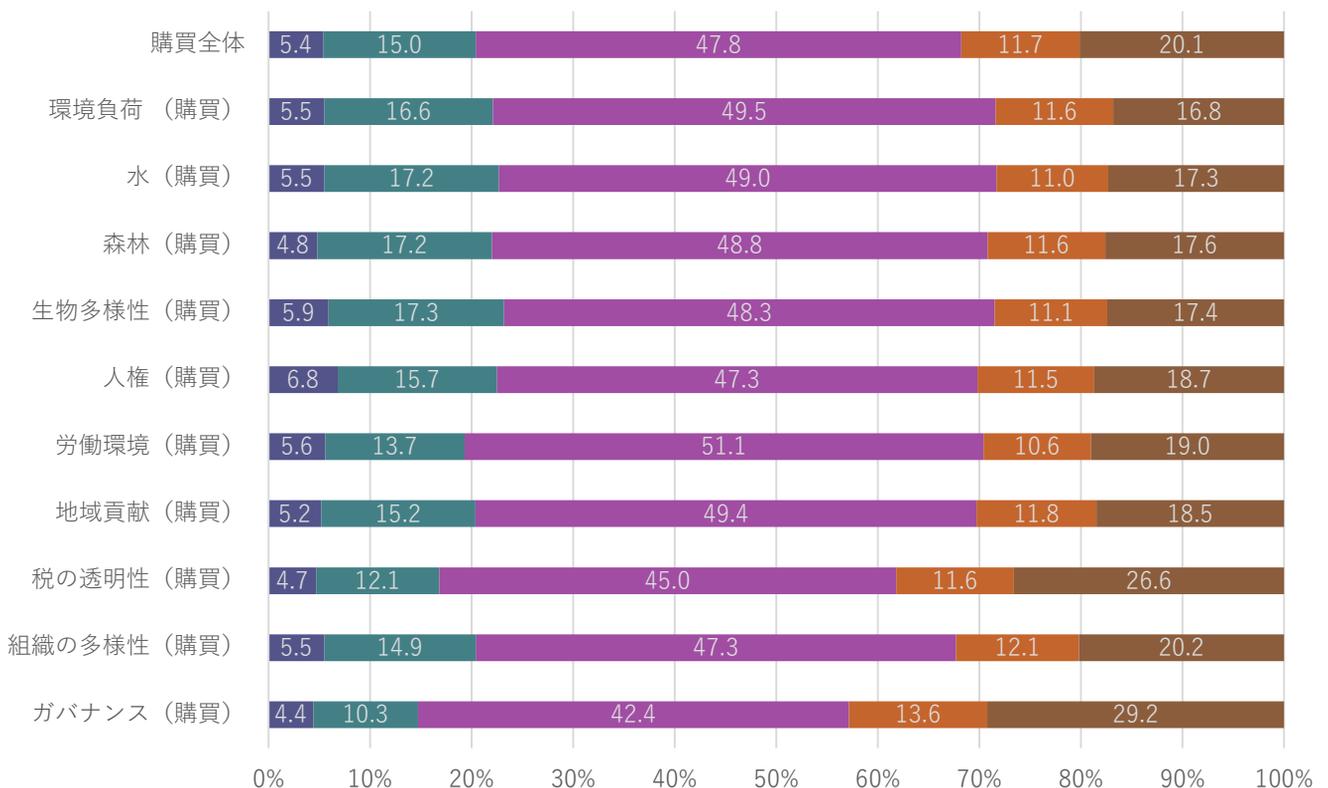
エシカル消費先進群が配慮するテーマは環境課題が最も多い。トップは生物多様性、2位は森林と水。

環境、社会、ガバナンスのカテゴリー別でみると、エシカル消費先進群は生物多様性が最も多い。また、エシカル消費検討群では、最も多かったテーマは労働環境だった。

図表17.1 購買判断に企業のサステナビリティ課題の取り組みを考慮する人の割合（ESG別）



図表17.2 購買判断に企業のサステナビリティ課題の取り組みを考慮する人の割合（サステナビリティ課題別）



3. サステナビリティ購買意識調査 ～価格とサステナビリティ選好（3）～

商品・サービスを購入する際、考慮するサステナビリティ課題は50代以上男性で社会課題が多く、女性は環境課題が占める

「値段に関係なく買う」、「1~2割までなら高くても課題に配慮した商品を買う」と答えたエシカル消費先進群を世代別、男女別で比較したところ、50代以上では男性より女性の方が環境関連のテーマを選ぶ傾向が強い。50代以上の男性は社会のテーマを選んだ人が多く、人権が1位となったほか、地域貢献や労働環境も選ばれた。女性は生物多様性への関心が高く、20代と30代で1位、40代と50代、70代で2位のテーマとなった。

図表18.1 エシカル消費先進群が考慮するサステナビリティ課題上位3位（世代別・男性）

	1位	2位	3位
20代男性	水	環境負荷	生物多様性
30代男性	環境負荷	生物多様性、人権	
40代男性	水	森林	人権
50代男性	人権	生物多様性	森林、環境負荷
60代男性	人権	森林	地域貢献
70代男性	人権	森林	労働環境

図表18.2 エシカル消費先進群が考慮するサステナビリティ課題上位3位（世代別・女性）

	1位	2位	3位
20代女性	生物多様性	水	地域貢献
30代女性	生物多様性	森林	水
40代女性	水	生物多様性	森林
50代女性	人権	生物多様性	森林
60代女性	森林	水、人権	
70代女性	森林	生物多様性、組織の多様性	

3. サステナビリティ購買意識調査 ～価格とサステナビリティ選好（4）～

エシカル消費検討群では、社会課題への関心が環境を上回る

エシカル消費検討群を男女別、世代別に集計すると、男性の20代～40代では社会課題、50代～60代では環境課題が多くなり、先進群の傾向と逆になった。女性でも、全世代を通して、労働環境や地域貢献といった、社会課題が上位を占めた。

図表19.1 エシカル消費検討群が考慮するサステナビリティ課題上位3位（世代別・男性）

	1位	2位	3位
20代男性	労働環境	環境負荷、森林	
30代男性	労働環境、森林		地域貢献
40代男性	労働環境	地域貢献	生物多様性
50代男性	地域貢献、水		森林
60代男性	水	生物多様性	森林
70代男性	環境負荷、水		生物多様性、 地域貢献

図表19.2 エシカル消費検討群が考慮するサステナビリティ課題上位3位（世代別・女性）

	1位	2位	3位
20代女性	労働環境	環境負荷	人権、水
30代女性	労働環境	環境負荷	組織の多様性
40代女性	労働環境	人権、地域貢献	
50代女性	地域貢献	労働環境	森林
60代女性	環境負荷	労働環境、地域貢献	
70代女性	労働環境	地域貢献	環境負荷、水

調査結果考察 (1)

■ 20代のSDGsや地球温暖化への関心は相対的に低い

- 世界的には若い世代の方がサステナビリティ課題やSDGsへの関心は高いと言われている。しかし、今回の調査では、SDGsを初めて聞いた・知らない、SDGsにもともと関心や意識がないと答えた割合は20代、30代が最も多く、世界の傾向との整合が確認できなかった。20代、30代ではGoal 8（働きがいも経済成長も）、Goal 10（人や国の不平等をなくそう）、Goal 5（ジェンダー平等を実現しよう）といった、社会課題が上位5位に入り（図表3）、それらを選んだ理由として5割以上の人が日本国内や自分の周辺にとって目標に遠い現状があるため、と回答している（図表5.1）。
- 気候変動の影響に関しても、SDGsの中で最も大切だと思う目標にGoal 13（気候変動に具体的な対策を）を挙げたのは50代以上で最も多く、20代、30代の関心は低かった。さらに、地球温暖化の影響がすでに起きていると回答した人は全体の52.9%、50代以上では過半数以上にのぼったが、20代の37.5%は地球温暖化の影響はまだ起きてないと認識し、今すでに起きているとの回答（35.6%）を上回り、喫緊に影響があると考えていない傾向が見られた（図表6.1）
- この結果も世界の調査と異なる傾向を示している。英バース大学が世界10か国の16-25歳の10,000人を対象に地球温暖化に対する見方を調べた最新の調査（*1）では、59%が気候変動の影響を深刻に憂慮しており、4割が将来子どもを産むのに躊躇するとまで答えたことが明らかとなっている。
- 同様に、アメリカの調査会社Edelmanが16歳~38歳のZ世代とミレニアル世代のアメリカ人を対象に行った調査（*2）によると、33%が地球温暖化が最も喫緊の課題と認識していることも判明した。
- デロイトトーマツが18歳~37歳を対象にしたミレニアル年次調査（*3）では、調査対象の43カ国のミレニアル世代（27歳~38歳）の28%、Z世代（18歳~26歳）の30%が環境問題や地球温暖化について懸念をいただいている一方で、日本はそれぞれ20%、21%にとどまった。
- これら3つの調査と本調査の年齢区分や質問はそれぞれ異なるものの、世界の20代~30代の世代は、地球温暖化の影響を深刻に捉えている一方で、日本の20代、30代の関心は低い傾向にあることがうかがえる。
- 20代は地球温暖化といった世界全体の課題よりも、自分に身近な、所得の不平等や働きがい、ジェンダー平等といった社会的課題に対する関心が高い可能性がある。

*1 Hickman, C., Marks, E., Pihkala, P., Clayton, S., Lewandowski, E. R., Mayall, E. E., Wray, B., Mellor, C., & van Susteren, L. (2021). Young People's Voices on Climate Anxiety, Government Betrayal and Moral Injury: A Global Phenomenon. *SSRN Electronic Journal*. Published. <https://doi.org/10.2139/ssrn.3918955>（最終アクセス日 2021年9月24日）

*2 New Survey Reveals Strong Support of United Nations from Millennials and Gen Z but Have Little Understanding of the Sustainable Development Goals. (2019, September 23). Edelman. <https://www.edelman.com/news-awards/new-survey-reveals-strong-support-of-united-nations-from-millennials>（最終アクセス日 2021年9月24日）

*3 デロイトトーマツ「2020年 デロイト ミレニアル年次調査（日本）」
<https://www2.deloitte.com/content/dam/Deloitte/jp/Documents/about-deloitte/news-releases/jp-nr-nr20200706-deloitte-millennial-survey-2020-jp.pdf>（最終アクセス日 2021年9月24日）

調査結果考察 (2)

■ サステナビリティに対する意識は20代で二極化している可能性

- ESG投資を今後してみたいと答えた人は20代が44.9%と世代間比較では最も多く、女性では47.4%に上り、男性より4.8ポイント高い(図表7.1、7.3)。また、投資リターンよりもある程度ESGを優先したい「ESG投資選好群」は70代に次いで20代の17.4%が最も多く、男性では18.6%となり、女性より2.3ポイント高い(図表12.1、12.2、12.3)。
- 20代でESG投資をすでにしている及び今後してみたいと思う理由として、「リターンにつながると思うから」を挙げたのは25.9%で30代の次に多く、男女の差は1.5ポイントと大きな差は確認できなかった(図表10.1、10.2、10.3)。
- このように、20代ではESG投資への関心や理解が他の世代よりも広がっているという側面が見える一方、他の世代に比べSDGsを知らない人が多く、気候変動の影響を認識している人も少なかった。20代の中でもサステナビリティ課題に関心のある人とそうでない人が二極化しているようだ。今回のデータからは男女の違いがわずかにみられたが、二極化の実態とその背景についてさらなる調査が必要だ。

■ 収益(リターン)よりもESGを優先する人々は、人権など社会課題に関心

- 収益(リターン)よりもESGを優先するESG投資選好群では、優先するサステナビリティ課題は、人権が1位(図表13.2)。男女別・世代別では、男女ともに、20代では生物多様性、30代~50代では人権が1位となる(図表14.1、14.2)。
- 一方、ESG投資検討群では、水が1位、次いで森林、生物多様性と主に環境関連課題が上位となった。男女別、世代別では、30代以上の男性の上位1~3位、20代~60代女性の1位は全て環境課題となった(図表15.1、15.2)。
- ESG投資選好群と検討群で関心のあるサステナビリティ課題が異なる要因として、近年の企業の人権配慮の取り組みに対するメディアの関心の高まりが影響していることが考えられる。新疆ウイグル自治区やミャンマーにおける人権侵害の疑いを受けた企業の事業撤退、機関投資家の投資撤退が報じられる中、企業の人権に対する取り組みは投資判断において考慮すべきという認識が深まっている可能性がある。リターンよりもサステナビリティ課題への配慮を優先したいというESG投資選好群は、こうした情報に敏感に反応する傾向があることが考えられる。

調査結果考察(3)

■ ESG投資とリターンとの関係性を示す情報の少なさが課題。サステナビリティ課題に配慮しない商品は競争力を失う可能性があり、さらなる調査研究と企業の情報開示が求められる。

- ESG投資をすでにしている人は3.1%。聞いたことがある、と答えた人（14.6%）も含めても、ESG投資の認知度は17.7%と低い（図表7.1）。
- ESG投資に関心のある人の理由は、「環境や社会にとって良いことをしたいから」と「自分のお金が悪いことに使われたくないから」の合計が56.2%で、リターンにつながることを理由に挙げたのは15.6%にとどまった。一方、ESG投資に関心がない人の理由は、「リターンとの関連性が分からない」が37.6%、「金融商品のESG情報が少なく判断できないから」が25.2%と、投資判断に活用する情報が十分でない現状が明らかになった（図表9）。
- また、「リターンが同じくらいならサステナビリティ課題に取り組む企業に投資したい」、「リターンが見劣りするなら投資しない」という「ESG投資検討群」が全体の半数以上だった（図表12.1）。「ESG投資検討群」はESGの考慮とリターンの関係性を示す情報さえあれば、サステナビリティに配慮した投資をしたいと考えているとも言え、そういった情報が不足していることを表しているようだ。
- ESG要素の考慮が長期的にプラスのリターンをもたらすことは海外の先行研究で徐々に明らかになっており（*5）、こうした研究と情報発信を進めることで、サステナビリティに配慮した投資をしたいと考えている人たちのニーズを満たすことができるだろう。
- 購買に関しても、同じ値段であればサステナビリティに配慮した商品を選ぶと回答した人が全体の約5割（図表16.1）いる。サステナビリティを検討する傾向はあるが、「良いものなら高くても買う」というわけではなく、価格が商品選択の上での大きな決定要因であるということが確認できる。
- 裏を返せば、今後サステナビリティに配慮した金融商品、製品、サービスの展開が増えれば、そうでないものは消費者や個人投資家から選ばれなくなる可能性を示唆している。
- サステナビリティ課題やESG投資が将来の自分の生活に関係しているという認識が低いことも憂慮すべきだ。気候変動はもとより、エネルギー、食糧の安全保障、ジェンダー平等などの様々なサステナビリティ課題に関するリテラシーを向上させ、社会全体で有機的に課題に取り組むことができなければ次世代に健全な環境と社会を残すことは難しい。
- 日本におけるESG投資の運用資産は2018年から2020年の間に32%増えた（*5）にもかかわらず、特に若い世代でのサステナビリティの認識が進んでいない状況は「ESGウォッシュ」の温床になりかねない。真にサステナビリティに配慮した取り組みを行っている企業に正しく資金が流れるよう、また、より消費者や個人投資家が選好をもとにした行動をとれるようにするため、さらなる調査研究と情報開示が必要になる。

*4 例えば右記等。 Gunnar Friede, Michael Lewis, Alexander Bassen & Timo Busch, (2015, December). ESG & Corporate Financial Performance: Mapping the global landscap. Deutsche Asset & Wealth Management (UK) Limited. <https://www.unepfi.org/fileadmin/events/2018/sydney/ESG-and-Corporate-Financial-Performance.pdf>（最終アクセス日 2021年11月24日）

*5 Global Sustainable Investment Alliance, “Global Sustainable Investment Review 2020”, (2021). <http://www.gsi-alliance.org/wp-content/uploads/2021/08/GSIR-20201.pdf>（最終アクセス日2021年12月2日）

関連調査概要

Young People's Voices on Climate Anxiety, Government Betrayal and Moral Injury: A Global Phenomenon

- 調査目的：世界の若年層が気候変動に対して抱いている感情、考え、そしてそれらのインパクトを理解すること、気候変動に関連する不安と政府の対応、精神的損傷（moral injury）の関係性について論じること
- 調査対象者：10か国（イギリス、フィンランド、フランス、アメリカ、オーストラリア、ポルトガル、ブラジル、インド、フィリピン、ナイジェリア）各1,000人、計10,000人の16～25歳男女（16歳～20歳と21～25歳は49対51、男女比は51：49でほぼ半分）
- 実施時期：2021年5月18日～6月7日
- ファインディング：回答者の84%が少なくとも少しは地球温暖化について不安に感じている（59% very or extremely worried, 84% at least moderately worried）。50%以上が悲しみ、不安、怒り、力不足（Powerless）、絶望（Hopeless）、罪悪感を感じている。45%以上が、気候変動に対するネガティブな感情が日常生活に影響していると回答。政府の対応をマイナス評価し、保障されているよりかは、裏切られているという感情をいっている（greater feelings of betrayal than reassurance）。気候変動に対する不安は、政府の対応に対するネガティブな評価や裏切られたという感情と相関関係がある。

New Survey Reveals Strong Support of United Nations from Millennials and Gen Z but Have Little Understanding of the Sustainable Development Goals.

- 調査目的：明記されていないが、アメリカ人のZ世代のミレニアル世代の国連に対する印象とサステナビリティ課題の意識を調査した結果が掲載されている。
- 調査対象者：Z世代（16歳～22歳）とミレニアル世代（23歳～38歳）のアメリカ人計1,000人
- 実施時期：2019年8月
- ファインディング：30%がSDGsについて知っているという回答。サステナビリティ課題に取り組むべきは国連（31%）、政府（24%）が多く、ビジネスは7%。SDGsを知っているかどうかにかかわらず、ミレニアル世代とZ世代にとって気候変動（33%）と飢餓の撲滅（28%）が最も憂慮するトピック。96%の回答者が、人間の活動がもたらす気候変動の影響について心配しており（65%汚染、53%森林破壊、46%温室効果ガス排出）、それについて声を上げたり行動を取りたいと考えているほか、気候変動に取り組む商品を買いたいと答えた人は57%におよんだ。正しいビジネスをしていない企業には投資しないと答えたのは45%、内定を辞退すると答えたのは41%。

2020年デロイト ミレニアル年次調査

- 調査目的：ミレニアル・Z世代の社会観、仕事観、集行間、人生観を理解する。2020年はパンデミック後に追加調査を行い、パンデミックへの対応、パンデミックがもたらした影響についても調べた。
- 調査対象者：世界43か国で実施。日本ではミレニアル（1983年～1994年生れ）世代1,000人（第一段500人、追加調査500人）、Z世代（1995年～2003年生れ）600人（第一弾300人、追加調査300人）。男女比は半々。
- 実施時期：第一弾は2019年末、追加調査は2020年4～5月
- ファインディング：社会課題に対する意識では、第一弾の調査では、日本のミレニアル・Z世代にとっても最も大きな懸念事項は高齢化（ミレニアル世代31%、Z世代26%）。追加調査では「所得の不均衡」が最も大きな懸念事項に上がり（ミレニアル世代31%、Z世代23%）、次いで気候変動（ミレニアル世代：18%、Z世代14%）と高齢化。世界43か国では気候変動が第一弾、追加調査でも変わらず1位（各28%、30%）。環境保護に向けた取り組みについて、損害を修復するには手遅れであることに同意した日本のミレニアル・Z世代はグローバルで最も多い。日本のミレニアル世代の3人に2人、Z世代の2人に1人が、「自身が環境に及ぼす影響を制限するために、自分自身の行動を変える」と回答し、他国より低い数字となった

About QUICK ESG 研究所

ESG課題およびサステナブル投資に関する研究を専門とするアナリスト、コンサルタントを擁し、機関投資家や金融機関、企業のESG/CSR部門などに必要なESGデータ、調査レポート、および戦略アドバイザーを提供しています。

- 2014年4月 vigeoeiris社と提携し機関投資家向けESG評価情報の提供およびアドバイザーサービスを開始
- 2014年10月 年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の「年金積立金管理運用独立行政法人におけるスチュワードシップ責任及びESG投資のあり方についての調査研究業務」を受託
- 2015年2月 事業法人向けアドバイザーサービス「QUICK ESGサービス for Corporation」を開始
- 2015年5月 「QUICK ESG研究所ポータルサイト」を開設
- 2017年7月 CDPのスコアリングパートナーに認定
- 2017年11月 FTSE Russell 公式データベース使用ライセンス取得
- 2019年6月 Arabesque S-Ray社と提携し機関投資家向けESGスコアの提供および企業向けアドバイザーサービスを開始
- 2020年4月 QUICKとして、国連グローバルコンパクトに署名
- 2021年10月 QUICKとして、TCFD提言への賛同を表明
- 2021年10月 Sustainalytics社のESGリスクレーティングの提供を開始

【国際的な活動】

PRI署名機関

CDPゴールドデータパートナー、CDP気候変動スコアリングパートナー、森林レポートパートナー

JSIF法人会員・理事、金融SDGs学会会員・理事

RI (Responsible Investor) パートナー



TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

Signatory of:

PRI Principles for Responsible Investment



a Morningstar company

About QUICK ESG 研究所

QUICK ESG研究所 ポータルサイト <https://www.esg.quick.co.jp>

QuickESG研究所 責任投資の最前線

ログイン ユーザー登録 お問い合わせ

ESG研究所 Why QUICK ESG

サービス Services

リサーチレポート Research

メディア掲載情報 QUICK ESG in Media

ブログ Blog

用語解説集 Glossary

リサーチ記事検索

ジャンルから探す

業界から探す

地域から探す

カテゴリから探す

SFDRの概要と金融機関の対応状況

2021年3月10日、欧州連合（EU）で金融機関等を対象としたサステナビリティ関連の開示規制SFDR...

続きを読む

QuickKnowledge ESG研究所

Events イベント

2021年11月17日
ワークショップ2021 第四回
開催日時 2021年11月12日
(金) 15:00~17:30...

2021年10月4日
【東京郵立大学×日本IR協議会×QUICK共催ウェビナー】「ESGカオスを超えて」
開催日時 2021年10月13日（水）13:00~17:30

2021年9月28日
ワークショップ2021 第三回
開催日時 2021年9月17日（金）15:00~17:30...

2021年7月27日

Research リサーチレポート

\$ DIVESTMENT

2021年11月16日 NEW
【RI特約記事】アクサIM、気候変動対策やネットゼロに前進しない企業から投資撤退も

Glossary 用語集解説

PRI

SDGs

日本語スチュワードシップ・コード

一覧を表示

Blog ブログ

2021年10月29日
【迫るCOP26】石炭火力発電の先行きに注目・戸田氏
10月31日から2週間にわたり、英国グラスゴーで第26回国連気候変動枠組み条約締結国

QuickKnowledge
ESG研究所

ご留意事項

- ・本資料は株式会社QUICK（以下、QUICK）が情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
- ・本資料はQUICKが作成し、独自の分析に基づく見解を示していますが、QUICKがそれらの情報および見解の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料を利用したことにより損害等を被った場合でも、QUICKおよびQUICKが指定する者は一切責任を負いません。
- ・本資料の内容は様々な理由により事前の連絡なしに変更、更新、削除することがあります。
- ・本資料に関する知的所有権を含む一切の権利はQUICKまたはQUICKの情報源に帰属します。
- ・本資料に関するお問い合わせは下記にお願いします。

株式会社QUICK リサーチ本部 ESG研究所 Email:esg.mkt.ug@quick.jp TEL:050-3529-9207